



里見八犬傳 第八輯 卷九



造  
 へ13  
 709  
 47



明遠 13  
 號 709  
 卷 47



明治三六年  
 十月九日  
 購求

南總里見八大傳第八輯卷之上套

東都 曲亭主人編次

第八十九回

奇功を呈して義俠冤囚を寧む  
 秘策を詳めて忠款奸佞を鋤く

再說坐撃師の銀本の樹杪に放し置る。秘猴と合ふとのあつてその身も願事あれども左右  
 るく立もあつて守りし守如連の催促をきかざりて今あらばその那兒秘猴と速く合へて上りあつ  
 せむ。汝が願ひ何れ彼も聽せぬとあつて其焦の嗚りの上の守護を伴當の一膈  
 る。河鯉權杖守如武士のその虚言の所願も必その功の有るに依るべし。はるは  
 狐疑せず準備せよ。快立ちねと用捨る火急の下知坐撃師の謀も謀も合笑  
 然るに其意を承ることも稟上りの所望もその稟上り然直承りて諄着隨時相も備  
 秘猴の怪我あり。秘猴の枯魚の市に訪ふ功をせざる。返り先即效を奏し。後

愁訴のよき事あらば、信美も忘れぬ。守如の如きもの、安んずる。力も、  
保つる。まじきと、焦燥して、此も猶豫せぬ。程遠く、及、轎子の内、具は、  
上へ、憑りて、竊め、飲ひ、あひ、小程、坐敷、師の、隨、期と、推して、守如、  
听し、も、再、擬、議、を、衣、領、撥、斂、め、茶、を、又、守如、ま、ち、對、ひ、て、實、は、仰、の、重、け、れ、命、限、り、  
枝、を、先、樹、登、り、を、仕、し、ん、無、礼、を、許、し、ぬ、ひ、の、う、ち、身、を、起、せ、守如、然、し、且、訝、り、  
脱、落、あ、ら、な、い、假、梯、の、准、備、の、見、え、と、回、り、坐敷、師、頭、を、掉、て、否、然、准、備、  
い、の、兵、を、口、拙、速、と、貴、ぶ、と、その、多、く、あ、ら、か、り、も、時、寝、さ、し、六、日、の、首、蒲、を、  
在下、が、拙、れ、と、段、と、脚、踏、せ、も、答、々、件、の、樹、下、獨、徐、に、立、寄、り、け、  
女、の、伴、當、社、僧、們、も、瞬、に、あ、せ、も、ち、目、成、る、大、家、並、て、あ、ら、  
か、り、枝、も、あ、る、巨、樹、の、下、小、寄、り、と、の、登、り、も、胡、慮、を、罪、ゆ、か、  
や、と、唾、を、飲、み、沾、ぬ、の、ま、り、と、坐敷、師、然、氣、も、あ、六、袂、の、間、と、撥、拂、り、  
合、出、坐、敷、師、

引伸、又、推、挽、ね、て、遙、く、高、に、第、一、の、枝、を、臨、み、て、投、掛、き、修、煉、差、を、  
枝、の、掛、り、勝、着、れ、り、と、大、家、齊、一、歎、唱、ま、り、それ、の、索、一、條、を、  
ま、六、坐敷、師、の、横、索、を、足、を、踏、掛、け、身、を、浮、し、て、  
巢、と、言、ひ、異、る、も、大、家、あ、れ、胆、と、決、し、と、  
杪、の、登、り、勝、着、れ、る、  
籠、上、り、も、茶、と、撮、出、し、て、一粒、  
出、て、逃、ん、と、せ、と、牽、寄、せ、と、  
上、に、到、り、と、復、索、階、子、を、反、揚、れ、  
守如、の、身、邊、不、  
茶、を、飲、せ、と、  
恙、な、り、一、  
引伸、又、推、挽、ね、て、遙、く、高、に、第、一、の、枝、を、臨、み、て、投、掛、き、修、煉、差、を、  
枝、の、掛、り、勝、着、れ、り、と、大、家、齊、一、歎、唱、ま、り、それ、の、索、一、條、を、  
ま、六、坐敷、師、の、横、索、を、足、を、踏、掛、け、身、を、浮、し、て、  
巢、と、言、ひ、異、る、も、大、家、あ、れ、胆、と、決、し、と、  
杪、の、登、り、勝、着、れ、る、  
籠、上、り、も、茶、と、撮、出、し、て、一粒、  
出、て、逃、ん、と、せ、と、牽、寄、せ、と、  
上、に、到、り、と、復、索、階、子、を、反、揚、れ、  
守如、の、身、邊、不、  
茶、を、飲、せ、と、  
恙、な、り、一、

大佛入道集卷八上 二 大佛入道集

この 猿の息絶る事ありしに、  
 去て這兒猿の息絶る事ありしに、  
 たるけるも、  
 其の姓名宿所、  
 日御沙汰願、  
 の鳥許がま、  
 との守如、  
 頭、  
 のま、  
 子の窓、  
 果て、  
 願ひ、  
 ると、

と、  
 去て、  
 たるけるも、  
 其の姓名宿所、  
 日御沙汰願、  
 の鳥許がま、  
 との守如、  
 頭、  
 のま、  
 子の窓、  
 果て、  
 願ひ、  
 ると、

方々の一々をきこ見ると亦何ぞ異ぬらんその在下この這毛まへとうごもりてまへ別よりうご固く請うごきしむ。又うご並言うご  
さへうご美りの一うごをうご推うご候と合うごみぬうご猶豫うごき、這身うごの願うごひのうご願うごひのうご願うごひのうご願うご  
をうごあかぬうご終うご然うご也うごもうご虚言うごふひのうご去うごみうごぐうごをうご思うごひのうごひうごとうご詞うごせりうご。密うご密うごめてうご權うごをうご犯うごせしうご明辨うご理論うご  
守如うごの困うごト果うごてうご沈吟うごもうごるうご半响うごもうごるうご憶うごぢもうご嘆息うごしてうご喃物うご四郎うごのうご趣うごをうご理うごあうごのうご今うご愆うごマ  
と答うごへの和郎うごの底意うごと探うごん為うごのうご然うごもうご出うごんうご披露うごせんうご怨うご言うごとうご恨うごめてうご登見うごをうご放  
ちうごくうご由うご縁うごくうご鮮うご目うご上うごのうご轎うご子うごのうご頭うごのうごまうごりのうご跪うご伏うごてうご却うご物うご四郎うごがうご愁うご訴うごのうご趣うご管うご様うご々うご々うごとうご申うごえうごあうごけ  
去うごをうご鮮うご目うご上うごのうご諾うごひうごてうご又うご仰うごるうご旨うごありうご。守如うごこれうごをうご奉うごりうご昔うご所うごもうご退うごてうご物うご四郎うごとうご招うご近  
つうごげうご目うご今うご汝うごがうご愁うご訴うごのうご趣うご上うごのうご餘うごもうごきうご思うご食うごるうご御うご威うごもうご特うごまうご浅うごくうごをうご申うご途うごのうご訴うご不うご便うごぢうごれ  
とうごもうご推うご候うごとうご合うごみうごへうごくうごまうごわうごけうごるうごのうごのうごあうごれうごばうごちうご置うごはうごがうごるうご。遮うご其うご他うご家うごのうごるうごくうご婦うご城うごのうご後うごの  
官領家うごへうご申うごえうごおうごびうごてうご又うご下うご知うごのうご遅うご速うごをうご依うごるうごをうご説うごきうごれうごもうごあうごるうご内うご々うごのうごあうごりうごてうご景うご春うごのうご掩うご任うごあり  
腹うごのうご刀うご自うごのうご兄うご婦うごのうごつうごれうごはうご疎うごあうごるうごをうごみうごけれうご。這うご里うごのうご密うご使うごとうご遣うごしうご。為うご密うご冤うご屈うごのうご罪うご人うごとうご救うごべうごし

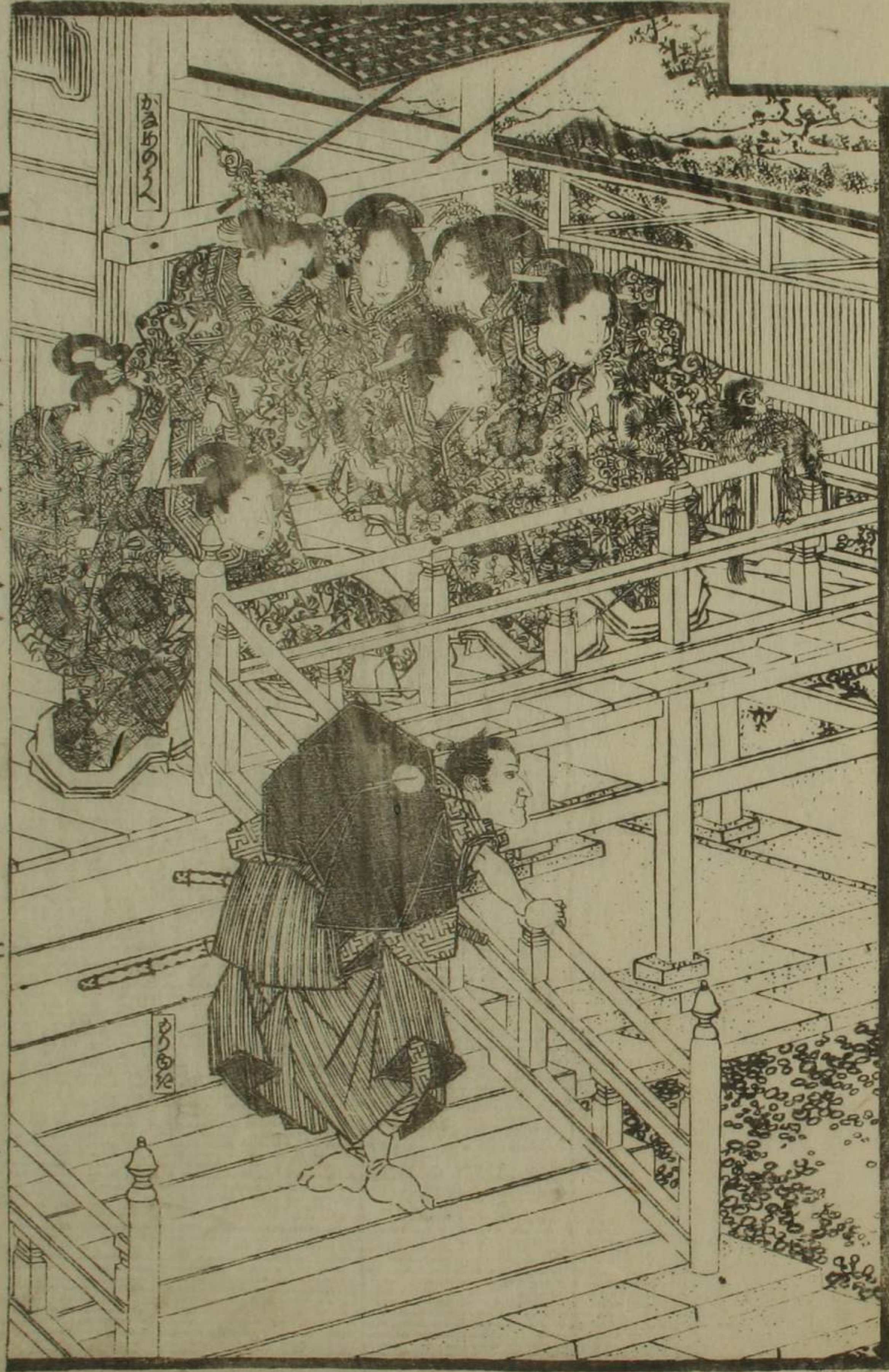
このよあぐくあぐおあぐせあぐけあぐ  
這あぐ它あぐのあぐよあぐのあぐ任あぐ心あぐ々あぐとあぐ仰あぐ付あぐられあぐりあぐけれあぐ別あぐ當あぐ所あぐをあぐ免あぐ消あぐ息あぐとあぐまあぐりあぐてあぐ汝あぐとあぐ共あぐ侶あぐはあぐ那あぐ兒あぐ使あぐとあぐ遣  
されあぐんあぐ世あぐもあぐ有あぐがあぐたあぐらあぐんあぐ慈あぐ悲あぐとあぐ空あぐをあぐもあぐろあぐやあぐりあぐをあぐ抑あぐ汝あぐのあぐ次あぐ團あぐ太あぐがあぐ由あぐ縁あぐのあぐのあぐ牧あぐ親あぐ族あぐ族あぐとあぐ同  
へあぐ物あぐ四郎あぐのあぐ感あぐ謝あぐはあぐ勝あぐぞあぐをあぐ慚あぐ愧あぐ死あぐ死あぐ計あぐひあぐのあぐ罪あぐをあぐぬあぐるあぐ命あぐをあぐ救あぐせあぐるあぐおあぐんあぐ功あぐ徳あぐのあぐ推あぐ候あぐのあぐ必  
死あぐとあぐ救あぐひあぐよあぐりあぐ適あぐふあぐ優あぐてあぐいあぐとあぐ愛あぐりあぐ。原あぐ這あぐ愁あぐ訴あぐのあぐ在あぐ下あぐがあぐ身あぐをあぐ拘あぐはあぐりあぐひあぐひあぐああぐるあぐ。訴あぐ訟あぐ人あぐのあぐ另あぐま  
在あぐるあぐこあぐのあぐひあぐ。違あぐはあぐらあぐまあぐりあぐてあぐいあぐとあぐいあぐとあぐとあぐ喚あぐりあぐけあぐてあぐ連あぐりあぐまあぐりあぐとあぐ抗あぐはあぐ差あぐ招あぐけあぐ始あぐとあぐ社あぐ木あぐのあぐ母あぐ陰あぐをあぐ驟  
まあぐてあぐ竊あぐ聞あぐきあぐりあぐけるあぐ。卿あぐ云あぐらあぐるあぐゆあぐてあぐああぐるあぐゆあぐてあぐああぐるあぐゆあぐ。物あぐ四郎あぐがあぐ後あぐ方あぐはあぐ土あぐ居あぐてあぐいあぐひあぐもあぐくあぐ額あぐつあぐてあぐと  
物あぐ四郎あぐはあぐ又あぐえあぐりあぐてあぐ却あぐ守あぐ如あぐおあぐ報あぐるあぐやあぐ。他あぐハあぐ則あぐ次あぐ團あぐ太あぐがあぐ孝あぐ順あぐをあぐ乾あぐ見あぐ也あぐ。卿あぐ云あぐとあぐ喚あぐ做あぐれあぐひあぐの  
るあぐ去あぐ歳あぐよりあぐ七あぐ次あぐ團あぐ太あぐとあぐ極あぐひあぐとあぐきあぐ欲あぐ考あぐのあぐ便あぐりあぐをあぐたあぐのあぐせんあぐ術あぐ竭あぐてあぐのあぐこあぐであぐ上あぐのあぐ免あぐ慈あぐ悲あぐとあぐ乞  
ひあぐはあぐよあぐりあぐごあぐもあぐかあぐるあぐとあぐいあぐひあぐをあぐりあぐ。越あぐ後あぐよりあぐ山あぐ做あぐをあぐ深あぐ垂あぐとあぐ踏あぐまあぐりあぐてあぐ。這あぐ東あぐ路あぐはあぐああぐれあぐれあぐもあぐ管あぐ領  
さあぐのあぐ御あぐ内あぐ也あぐ。由あぐ縁あぐもあぐああぐるあぐ。相あぐ識あぐるあぐけあぐれあぐ神あぐのあぐ宣あぐ助あぐとあぐ祈あぐんあぐとあぐ當あぐ社あぐにあぐ事あぐ情あぐをあぐ在あぐ下  
料あぐをあぐ少あぐ知あぐりあぐ。折あぐしあぐもあぐああぐれあぐ幸あぐひあぐ上あぐのあぐ御あぐ社あぐ参あぐりあぐけるあぐ。御あぐ寵あぐ慈あぐのあぐ離あぐ推あぐ候あぐ放あぐれあぐ。瘳

あつぐ。きこ。それがまゝのちのち。任々として。在下。即便。望まうと。狢猴。と合せて。あつぐ。せし。這。鯉。との。與。れ。て。俺。身。の。こころ。一。言。も。名。利。を。求。る。所。以。る。に。這。意。を。查。し。ぬ。か。か。と。い。ふ。亦。鯉。の。頭。を。擡。り。膝。を。杖。の。目。今。恩。人。の。稟。せ。し。聊。も。錯。ひ。ひ。な。次。圍。太。の。人。も。知。ら。ず。使。者。を。て。ひ。ひ。と。淫。婦。奸。夫。の。誣。ら。れ。て。木。天。苜。蓂。丸。の。さ。ま。分。説。立。ち。片。目。の。獄。舎。へ。入。り。敷。糸。れ。ら。然。も。上。の。お。ん。慈。悲。を。救。せ。ら。れ。枯。樹。ま。死。の。春。ま。あ。る。ん。那。身。の。洪。福。は。是。御。恩。に。依。る。の。め。い。う。で。宜。か。ん。執。成。と。願。願。ひ。ま。ら。れる。の。と。い。ふ。と。ち。ぢ。く。守。如。の。救。馬。も。て。感。嘆。と。考。へ。ん。物。四。郎。の。あ。ら。良。知。見。の。義。士。ま。り。是。第。の。う。へ。別。當。所。を。詳。し。稟。上。せ。し。を。御。神。符。の。果。る。比。此。彼。俱。別。當。所。へ。伺。候。し。と。御。沙。汰。と。等。お。あ。る。か。飲。生。示。を。程。し。も。あ。ら。な。し。輜。隸。の。光。當。黒。が。声。高。く。あ。ら。ぬ。輜。子。を。擡。け。と。下。知。は。大。家。に。め。だ。て。前。馳。後。從。の。歩。列。の。乱。さ。ぬ。春。の。遊。糸。を。花。の。袂。に。か。ま。ま。せ。と。本。社。に。投。て。徐。々。と。外。視。も。ぬ。と。俱。一。た。り。け。既。子。と。鮮。虫。目。上。の。輜。子。の。り。過。て。陪。伴。さ。し。あ。ら。る。た。る。迹。は。送。り。鯉。の。物。四。郎。ふ。ち。對。ひ。て。と。い。ひ。ける。は。お。ん。の。洪。恩。經。兄。

弟親類とも。這親切及人。今。越。後。へ。か。ら。ぬ。兄。哥。々。次。圍。太。が。敵。ま。あ。つ。再。沙。波。女。の。求。ぬ。折。り。の。恩。義。を。報。知。し。俱。亦。復。這。地。來。て。執。ひ。て。演。べ。れ。願。ふ。宿。所。も。坊。名。も。且。は。知。し。ぬ。と。い。ふ。と。物。四。郎。の。さ。あ。ら。ぬ。と。考。へ。ん。俺。の。和。主。と。相。識。さ。る。と。次。圍。太。公。相。の。さ。い。も。名。さ。し。使。氣。あ。つ。と。預。め。さ。し。知。り。ぬ。然。も。公。相。不。知。ら。れる。大。田。入。川。二。勇。士。の。俺。莫。逆。は。友。多。木。天。苜。蓂。の。名。刀。の。大。田。と。穴。竊。刺。し。と。ある。賊。婦。船。虫。は。ま。り。あ。つ。て。苜。蓂。害。竟。不。次。圍。太。の。身。は。係。り。ぬ。縁。由。と。知。さ。り。一。日。の。是。非。も。ま。り。以。料。ら。ず。も。傳。言。で。二。辟。月。の。力。を。盡。せ。し。大。田。代。り。て。那。公。相。を。救。ん。と。の。所。為。る。も。宿。所。と。生。口。で。訪。る。と。も。後。日。の。謝。義。を。何。せ。ん。日。足。の。あ。つ。と。次。圍。太。公。相。の。傳。言。と。其。以。て。お。ん。恩。と。甘。美。義。使。の。救。馬。輜。子。を。感。涙。坐。お。進。む。と。覺。け。二。尺。帶。を。來。さ。る。も。杖。を。掖。合。し。と。額。を。杖。の。四。下。を。さ。る。の。原。末。お。ん。の。那。二。大。士。の。友。達。で。と。せ。一。家。見。ぬ。仇。を。な。す。他。御。中。の。這。由。縁。由。を。憶。ひ。資。助。を。給。ふ。の。祈。る。感。應。速。く。是。當。社。の。神。の。眞。助。も。あ。ら。ぬ。是。は。跡。も。あ。ら。ぬ。身。の。う。へ。を。詳。し。ま。は。す。

と父を物四郎の推察ゆき。亦益々其身敗名裂。那小文吾們的三天士と俺友垣と結び。知  
 らざる解の済む。道里多し時を殺さる。善ハ急ハ世話中の快別當所へ赴て上の  
 御沙汰を等してとれ。ゆとりありと諭。人の信不願三件のよと向ふ。物四郎と共侶  
 別當所へ赴て。權佐守如小伺候のよとゆえ。あけて下知を候。正一响をり。日景斜まり。比  
 夜中。守如。端近う。き。物四郎と駒。召よ。却り。御向。如  
 小千谷の御民次。困太。助命の願。物四郎。猿猴。合。功。願。聞。食。容。ら。れる。因  
 目今。這所。お。伴。當。妻。有。復。六。次。通。不。仰。付。れ。ぬ。消。息。を。齎。し。片。貝。遣。さ。る。駒。二  
 次。通。不。俱。と。那。地。不。能。歸。り。片。貝。殿。の。沙。汰。を。候。又。白。井。の。景。春。主。越。後。と。路。近  
 けれ。御。歸。城。の。後。管。領。家。の。お。ん。聆。子。連。お。下。知。を。得。て。更。亦。別。人。遣。さ。し。と。仰。る。片。貝  
 并。白。井。の。城。御。消。息。の。取。寄。小。千。谷。の。民。次。困。太。當。館。御。舊。領。の。取。寄。れ。ど。那。者。不  
 慮。不。罪。あ。る。久。く。禁。獄。せ。れ。ら。れ。知。召。り。す。羊。來。御。信。仰。凌。ら。げ。る。湯。嶋。

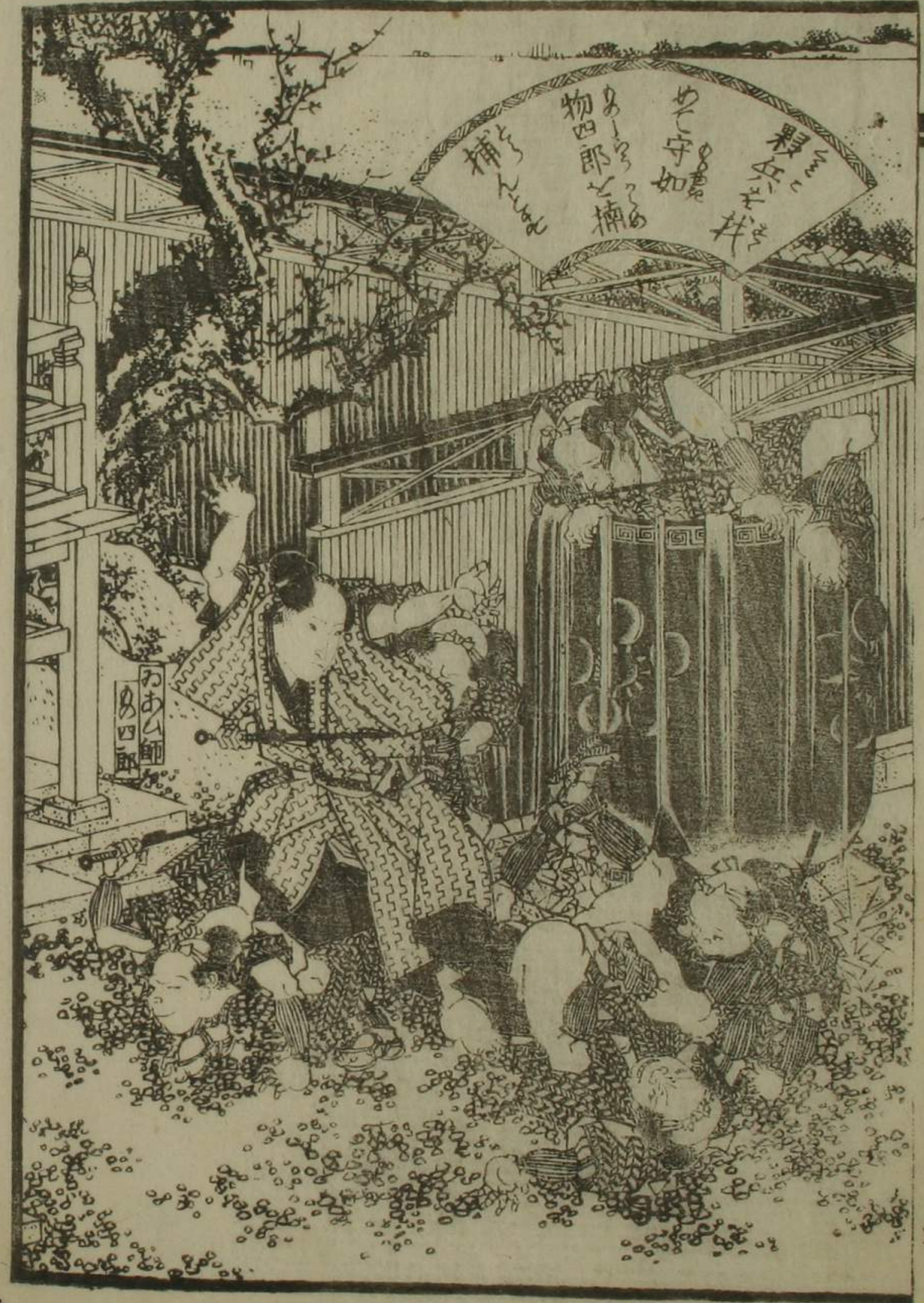
神の身夜の父夢。不。え。ぬ。以。て。箇。様。々。の。示。現。あり。これ。より。次。困。太。が。冤。屈。の。面。非。知。召。れ。り。  
 特。不。便。思。召。ほ。す。次。困。太。が。赦。免。し。て。罪。多。民。を。罪。多。れ。ぬ。神。人。の。望。望。稱。小。その  
 家。の。之。致。叙。昌。廿。忠。告。の上。旨。是。実。之。符。信。を。て。ひ。と。竊。不。仰。遣。さ。る。若。們。の。氣。を。あ。ら。は。す。て  
 名。聞。あ。る。と。い。は。し。る。物。四。郎。と。物。四。郎。の。竊。め。ら。る。別。議。あり。舊。所。退。下。向。折。を。守  
 ね。外。中。寄。給。を。最。下。示。詞。の。兩。露。の。恩。受。る。轍。の。駒。三。江。小。遠。の。も。不。勝。の。致。物。四。郎。兵  
 侶。小。言。業。あ。つ。恩。と。拜。し。罷。出。せ。し。程。妻。有。六。郎。之。通。の。弟。より。復。六。郎。次。通。の。本。貫  
 越。後。と。今。這。使。小。揮。れ。行。其。衣。も。火。速。の。内。命。伴。當。四。五。名。従。へ。と。外。面。へ。立。出  
 たり。守。如。遙。ま。れ。る。と。妻。有。生。也。の。越。路。の。安。内。小。俱。せ。ら。る。駒。三。江。這。里。中。の。小。千。次  
 通。達。く。走。近。り。守。如。別。と。告。て。駒。三。小。密。使。の。よ。と。言。ふ。物。四。郎。も。恭。く。杖。を。對。して  
 駒。三。去。向。と。憑。む。値。遇。の。縁。色。も。還。る。由。別。の。一。言。次。通。の。依。不。願。三。を。得。て。東。弓。春。會  
 寒。一。歸。雁。西。千。日。先。之。越。の。旅。高。峯。深。雪。ま。か。と。想。像。ら。る。出。る。物。四。郎。も。後。ふ



八代傳八景卷上

七

八代傳八景



親父  
守如  
物四郎  
捕

八代傳八景

八代傳八景





勢ひありとも酔らば生れ来て夢のどく死にめ足とて其の性の美なるぬめりもく学べ  
氣質と更め行ひと新なる後竟に稍良善の域に至り性の美なるぬめりもくその行ひの  
美しき学びては死のぬめり性相遠く習へ近くと孔子のいふ是るべし俺ハ一個の師表も  
絶し自得するはけ文字武藝の人のぬめりもくぬめりもくぬめりもくぬめりもくぬめりもく  
坐敷の大刃の長は百轉て果敢る枝は辛笹と渡鳥の秋らるる冬もは這里に草枕  
旅宿の春と迎へては這身は春なるぬめりもくぬめりもくぬめりもくぬめりもくぬめりもく  
五月も日もありと日足と見景足と胸の有想無想千早振神の知るやといへば品出立の位  
一條は思ひと疑は壯士惘然とて鶴立ち後方より親小雜兵四五名左右齊声一を振りて振  
ぬめりもくぬめりもくぬめりもくぬめりもくぬめりもくぬめりもくぬめりもくぬめりもく  
甘き又左右より組むと閃くと引外を修煉の剽捷執鳥のどく寄る蹴倒し打倒し春は牙  
稲妻の雷を走る小異るるを嬉し加久繩捕索の甲斐を存れるも文を足ぬ乱れて幾番

とて投伏せられつ又起て寄るといふれは糸の組むを打惱され平張もあり臥もあり  
泥を吻く刺るる骨も膾炙する後と氣は撲傷の乾熱痛生る心地のせうけり  
とまが物四郎の初め緝捕の手も此も挫れ飽きも拉れても怒氣理ねば声高き小噫  
理不盡る緝捕三昧俺身取一毫も罪ありとも覚えぬそのも演ぶ毛と吹て求め痴小  
微なる後地と臥す虫も魂あり身の賤くとも阿容々々と非法の索不掛られや竹麻誰殿の下  
知るも頭人ありぬれと敦圍悍く吸れ甘立在む一個の武士あり石燈籠の蔭より  
その頭人の這里ある通愛なる勇士の本事今を慥に看届けられ反て找近つてこれを見  
別人も河鯉權佐守如音單守如物四郎さうち對して勇士姑く怒りを鎮めて俺のよ  
听ねか衛高和殿の進止辨舌應對智慧其藝術皆是人の及ぬ所才坐敷大刃の  
某と買て足れりと走死小田倉量の入るるといふ某も猜せぬ不討したる樹に登るお  
素階子に準備あり尚稽と踰堀と兼る強人ありやと疑ひ其首を起り一言と詔改々

試う。まを身の功を功とせん人の與ふ力を盡し七名利の掛念を去る。その行ひをなす所及びび。  
 疑心かづく。水解して是清白の義士あるを。知るといふも不飽を。武藝の本事を銚く。  
 後小室山議を告て相譚んと。あまなるを。盗み殺す。聊虎威を犯し。年か  
 ませ。まのの。うくみん。必是由緒ある武士の世と。源平のあを。本心實名懸  
 倍る。俊傑の徳民。回降るといふ。必是由緒ある武士の世と。源平のあを。本心實名懸  
 志。知。あ。俺も亦一大事と。あ明て。瀧心。た。密議あり。是併。其。心。の。所。為。る。俺  
 賢夫人。鮮。曹。上。の内。命。の。ゆ。り。の。事。の。這。美。引。の。ん。や。と。瀧。心。詞。の。殷。勤。は。初。異。大  
 ぼ。尊。信。礼。讓。亦。他。事。の。ま。く。え。か。物。四。郎。の。つ。ら。と。听。果。貌。と。改。め。く。思。ひ。け。ね。取。貝。大  
 夫。の。賞。美。の。不。之。分。小。過。さ。古。の。人。の。詞。の。女。已。と。母。本。の。為。を。貌。の。士。已。と。知。の。の。  
 為。小。死。ま。す。と。の。ま。の。れ。在。下。不。肖。と。の。も。既。小。夫。夫。知。れ。か。死。と。も。辭。去。る。あ。あ。あ。あ。  
 什。生。在。下。も。大。望。あ。り。て。い。ま。の。遂。ま。子。なる。道。を。重。要。ま。と。し。人。の。大。事。と。與。一。則。是。不  
 考。え。御。用。の。所。以。知。ね。も。輒。く。御。意。の。後。ひ。な。う。と。這。義。を。查。し。の。う。と。推。辭。を。守。如。推。復

あ。の。れ。ま。の。趣。然。も。あ。り。ま。ん。考。ひ。百。行。の。基。本。と。行。ひ。是。より。先。考。へ。と。親。仕。て。後。は。忠。君。の  
 移。走。べ。と。君。仕。て。後。の。信。朋。友。の。移。走。べ。親。の。為。を。推。辭。と。強。て。な。さ。れ。る。事。情。  
 案。ま。る。若。是。親。の。仇。も。そ。の。ま。宿。志。と。果。ま。る。身。と。愛。一。骨。と。惜。ま。て。推。辭。を。あ。ら。は。す。  
 縦。七。れ。の。の。あ。り。と。も。和。殿。の。智。恵。武。勇。と。七。愆。あ。る。あ。ら。は。今。俺。密。議。を。美。引。れ。あ。ら。は。  
 俺。も。亦。和。殿。の。與。ふ。真。愛。と。分。ち。方。と。勸。せ。ん。然。し。も。听。し。と。の。を。飲。と。酒。同。へ。物。四。郎。の。沈。吟。し。て。  
 嘆。息。ま。て。大。夫。は。是。俺。與。ふ。説。客。の。ま。り。あ。る。在。下。宿。望。あ。ら。は。も。切。り。新。何。劇。子。の。義。使。の  
 做。ひ。て。名。と。好。ん。異。義。の。在。下。義。を。結。び。方。異。姓。の。弟。兄。の。い。を。亦。ム。們。の。き。辞。別。れ。孤。鴈。の  
 旅。宿。の。春。秋。を。悠。端。に。弥。れ。も。然。し。も。宣。ま。る。御。用。の。筋。を。示。ま。る。這。身。の。慚。を。  
 ろ。御。意。の。後。ひ。な。う。と。這。義。を。查。し。の。う。と。推。辭。を。守。如。推。復  
 許。さ。を。あ。ら。は。と。同。復。さ。れ。て。守。如。の。ち。合。笑。の。點。頭。を。そ。の。勿。論。の。ん。か。然。し。も。機。密。を。示  
 走。べ。と。も。這。里。の。不。便。と。の。う。後。方。と。な。れ。御。物。四。郎。に。投。げ。る。雜。兵。們。の。身。を。起。し

来て其後、聚會して在りけり。と云々と喚びて、俺の權且退れて、這物四郎の死を、汝達の  
手は這頭、小處を俺三人を多々守りて當社に請來つるの、かゝるゆゑ、眼も腐し、  
困らまう、と云ふ大家ある、仰りけり。あゝ、あゝ、三方(別れ)張番と任らんと、回答する  
物四郎も、杖對し、小腰を折て、各々怪我、多く、一休、御計畧と、知むと、大く、重札を、  
この大家、頭を搔て、不吉、幸ひ、怪我、ある、世お、珍しく、大勇士の、多々、あつた、  
あつた、似たり、御挨拶、骨節と、共、痛入、て、い、つ、と、笑ひ、けり、  
伴ふ、退く、と、一、反、つ、乾、淨、る、樹、拉、の、間、戸、隱、の、小、社、あり、けり、  
名詮、妙、と、て、門、扇、と、用、ひ、社、檀、木、登、り、て、俱、坐、し、占、め、對、し、  
んと、い、一、那、密、吏、の、言、長、く、も、初、より、詳、説、示、志、  
近、曾、小、田、原、の、北、條、氏、武、威、八、州、の、跋、扈、と、  
鎌、倉、と、退、り、て、戰、ひ、今、色、也、  
判定、正、  
顯、定、  
兩、管、領、  
の、中、睦、  
か、  
越、後、長

を、う、げ、たる、  
尾、景、春、の、原、是、當、家、の、家、臣、  
家、と、謀、と、合、せ、て、  
又、只、四、年、以、來、の、龍、山、免、太、夫、縁、連、と、  
ひ、こ、る、一、件、の、龍、山、縁、連、の、素、生、と、  
と、の、い、を、石、濱、の、城、あり、  
逐、電、を、下、野、と、  
城、と、攻、會、し、比、縁、連、の、主、の、使、と、  
許、封、  
只、管、仕、官、と、  
君、と、  
論、と、  
八、犬、傳、八、拜、卷、八、上  
土  
文、義、堂、註、義

の寵用せられて出頭肩を比るのみ。既に諸家老の次席の處らへしと解目上さへ  
驚たかしく館と諫めぬもの。言聴れるもの。中よりとせしむる。其門駭  
真及び連の諒をせしむ。解目上の世に言はる。取買女をせしむ。目及る。其至る。其  
館も程々脚心解は。初めかきせぬ。いづれも縁連が。いづれも是よりいづれも。いづれも下  
風を立て。東の媚るも。動も。然る。志ある輩。縁連が。素生。徳と。よく。知れる。あり。他が  
名を更姓と改め。龍山免太夫と名止れる。龍山の竹と除。逸東太の逸字の。走。東字と  
削去す。石濱と白井の城へ。えと。憚。日。陰者。と。腹心。と。あ。め。い。の。あ。を。と。吐。れ。て。齒。を  
切。ま。と。術。も。る。く。倒。他。に。中。ら。れ。て。罪。も。る。も。黜。け。れ。他。御。へ。走。る。も。ヨ。ク。は。任。り。一。程。の。去。歲。の。秋  
より。白井の長尾氏先非と悔。當家へ。帰。順。の。一。談。あり。忠。臣。を。て。祝。し。ま。う。と。萬。歳。を。唱。え。ふ  
獨。縁。連。の。飲。め。景。春。和。睦。と。做。ま。る。が。舊。思。遂。に。發。覺。て。身。の。與。り。と。思。ひ。け。ん。這。美。我。を  
拒。し。利。害。と。述。て。君。を。迷。し。ま。せ。し。館。は。是。も。疑。以。起。毛。久。く。ま。る。ま。を。決。一。の。ぞ。縁

連の之便り。又哄誘。一。も。り。景。春。帰。泰。と。願。ふ。の。い。づ。れ。も。虎。狼。野。心。の。癖。な。れ。後。程  
も。く。又。叛。ん。他。と。あ。ら。ふ。属。ら。れ。よ。北。條。氏。と。和。睦。と。て。景。春。と。討。平。の。あ。ら。上。野。越。後。城  
を。復。し。七。丸。勢。は。十。倍。せ。ん。然。る。と。た。の。山。内。也。も。怕。れ。て。和。順。と。及。べ。し。則。是。一。事。而。全。道。を。借。て  
號。と。し。ま。計。策。亦。優。し。も。り。這。美。と。御。許。容。あ。れ。か。と。連。の。不。慮。ゆ。え。ま。よ。る。館。を。遂。に  
諾。し。ぬ。い。づ。れ。も。諸。老。臣。の。御。沙。汰。も。る。縁。連。の。さ。う。ち。任。り。ゆ。い。て。汝。使。節。と。七。相。模。小。赴。死  
よく。誘。へ。た。か。と。昨日。仰。付。ら。れ。る。折。り。持。資。入。道。の。所。勞。も。と。相。模。る。糟。谷。の。館。の。符。息  
を。ぬ。れ。這。議。と。知。る。死。よ。も。る。あ。の。它。の。老。臣。忠。義。の。輩。縁。由。を。知。る。も。あ。り。あ。ら。何。事。と。と  
駭。直。愛。以。て。諫。め。し。も。と。欲。され。も。比。目。縁。連。に。柱。ら。れ。て。意。衷。と。演。る。所。を。解。目。上。も。あ。ら。事。と  
い。と。これ。一。思。百。也。も。左。も。右。も。諫。め。て。の。婦。言。と。思。召。ま。ぬ。奴。の。は。觸。れ。ん。の。を。せ。ぬ。術。も  
る。は。と。ま。る。年。來。信。ト。なる。北。野。の。神。の。也。祈。り。て。直。愛。甚。と。遣。さ。べ。し。思。慮。を。け。け。這。里。是  
ま。あ。ら。せ。ぬ。の。け。る。那。丸。狛。猴。の。放。き。し。る。料。を。和。殿。の。智。慧。を。備。其。藝。と。商。し。ぬ。丸。胸。の

思召すのれは望ま儘とて這所より越後へ密使を立てて那次國太と助命の一議を  
 仰遣されり。その意味もろふとて和殿が幾偏請ひまうとも然速る御沙汰あらん  
 や。恁て又御下向の折に竊に某に宣せしあるとて和殿の武藝を試し小の器小勝  
 たる旅身が剛雄萬夫を當の勇まうとて殿金定められ懸し申。竟に機密をうち請ひ相  
 譚んとし一秘事の那縁連の事か他が相換へ首途に羽の朝用とせえり。既而這議を  
 空知りて老輩多く眉を顫せし。志はべり。獨大塚ある大石父子。長尾  
 景春の姻者あれも。此條がふ心ある。件の密議の預め。家臣仁田山平五郎。縁  
 連の後へ遺書として準備あり。這に縁連と共侶は那地へ赴く。副使は長尾大山道  
 節が敷され。寛門三平が弟龜門鍋介既済越杉駝一郎が家男越杉駝三平が  
 崎悪四郎猛虎們縁連と正使として。此彼共武士五員雜兵二百名とせえり。密議の  
 表に即是と和殿の今宵も便宜の処伏願れ。那縁連と擇敵果一あり。相

摸へ使節の空とると皆徒ら引返さず。中小崎崎悪四郎猛虎の器械合して。雙舟積り  
 三十人の旅力あり。あつて。の年来數度の軍功あり。いふも。その心術奸佞也。縁連が腹心  
 これ。亞りの龜門既済越杉一岑。仁田山平五郎。至るまで。武藝云々尋常なる。ねも縁連既  
 敷される。勢頭を蛇のごとく。駭譟を度と失ん。その折和殿へ引外して。立退らぬか。恁  
 せと死の大敵あり。も危れ正る。ふ下。され矢砲あり。これ。擇敵も。做せ。この。又縁連が相  
 貌。恁々箇様々々。他へ正使の。これ。騎馬も。第一番あり。和殿の。美。この。え。  
 敷き果。の。ひる。千金。と。報ひ。せん。殊。小。猛。可。の。密。談。を。途。中。の。齋。輕。微。な。れ。も。あ。ら。ま。あ。ら。ま。  
 且。羽。立。の。費。用。も。做。の。ひ。と。町。密。小。機。密。漏。洩。其。見。示。と。遠。く。懐。の。紙。糊。る。金。十。兩。  
 と。種子。嶋。の。小。銃。と。出。て。卒。と。て。これ。を。贈。り。け。り。介。程。小。物。四。郎。膝。と。杖。め。耳。と。側。り。听。正。釣。  
 半。响。あ。ま。り。胸。月。豁。け。心。勇。ま。り。満。面。連。り。ふ。ち。笑。れ。る。飲。ひ。あ。ら。う。も。あ。ら。づ。り。と。推。鎮。め。は。づ。  
 送。も。り。听。果。形。と。正。り。老。守。如。對。ひ。て。の。さ。う。免。馮。公。の。一。條。異。議。を。兼。知。仕。り。ぬ。疑。

八尺專八陣巻之上



十四

八尺專八陣巻之上



此と打方の本  
文の巻の八の  
下のイトめま  
尺えさり

塩濱 簡麻鬼堂  
あやまの  
まじり

憑れしとぞも那縁連の年許尋索たるけ親の仇の方僅料も他が所在と具す  
知のるるで敷も果た便宜のなる武運の稱一期の幸以何事致是の優死今  
を明せ俺素生坐敷師放下屋物四郎と告の這地は橋居と寛家と素の重時  
假名定は千葉家庶流の家臣粟飯原首胤度が送腹の三男へ父胤度が枉死の後相  
摸州足柄郡大坂村を生れしを村の名の家跡とて大坂毛野胤智と喚做すのい  
を然に強裸の内もて俺身は四個の讎敵ありを一人の千葉家逆臣馬加日記常  
武をその父子夫婦徒類も己亥の年の五月十五日の真夜中比某則單  
身を成敷果たければも那縁連の這年来何首小在りと知るより多る面貌も認  
らねば心苦の身と寢てあつて限りとあつて小天運の循環と求むと仇の面貌來歴  
改名住所も今詳告され年来祈り神明佛陀の冥助あり一歎然縁連の妙の  
又妙一大奇事造化の加減行を天定の人勝の時到来のしつべし

大夫の計略は是の君の與るも某が行ふ所の運の與るも一金も受死や勇士の  
仇を敷き及びて名告被て斬戦し其首の雌雄を決せむと矢炮を撃ち捕ら捷と  
ともる月恥べ然れば這鳥眼鏡のるるも其の缺ねども是とも受死する長者  
贈ののを空ふあつて血氣の三男の誇るとそのいん因うこれを留め措て敵騎馬を  
馬を敷死して反落させ後敷るべし看的則縁連のその餘も怨むといへとも聞  
戦の沿道中を己が死時宜め至る成敷も果たむわん歎這を許しあつて詞を  
去く潜の死後で件の金を返さず守如連の感激も壯るが如く胆勇必是世残  
るのよき後傑るんと逆あつて石濱の粟飯原氏の子ありんか知を密謀し  
その人を殺する鬼神不測の良縁愚臣が孤忠孝子に復讐此彼一事両用する志願成就疑  
ひる非如縁連るるも靈門越越杉駱三仁田山晋五至るも皆足阿當の小人を  
國を賣り榮利を樂し機萌るる惜む不足も根と鋤て華木を枝を断る妙なる



一。あるれども深き。猶全勝と求む。欲せが術あり。其七十分を三分と送り。後悔するべし。  
脱落せざる。備規八目。助言の不故。只進退を敗る。要する。必。今。恥。この。長  
物。争。何。せん。この。不。預。り。置。て。功。後。必。君。夫人。より。重。賞。わ。る。春。の。日。ま。る。長  
か。下。晡。あ。る。ま。る。よ。の。盡。た。る。快。々。宿。野。退。り。て。翌。の。准。備。と。あ。る。心。慮。で。件。金。  
亦。懐。不。斂。一。か。の。毛。野。の。屢。妾。点。頭。て。笑。論。の。趣。あ。る。る。縦。哉。人。敷。捕。る。と。も。人。の。與。ら。ぬ。  
の。里。異。日。の。賞。禄。と。望。ん。や。平。立。あ。る。共。侶。小。社。と。出。て。別。れ。守。如。彼。此。立。疲。倦。れ。雜  
兵。と。召。取。合。後。あ。る。七。五。十。子。と。扱。て。毛。野。去。歳。より。僑。居。借。屋。と。て。飲。還。り。ける。  
且。あ。て。戸。隱。の。小。社。の。背。に。樹。間。より。頭。れ。若。已。前。の。武。士。何。の。程。あ。る。か。の。來。て。言。は。皆。空。鷄。聞。と。さ。る。  
は。獨。領。編。笠。の。深。死。思。念。も。其。荒。磯。海。の。遙。く。も。湯。嶋。坂。飛。が。似。く。下。立。て。性。方。も。知。る。ふ。  
け。の。畢。竟。毛。野。が。復。讎。言。の。緯。の。光。景。甚。麼。を。其。の。次。の。卷。の。下。小。解。分。は。を。聽。録。か。し。  
里見八大傳第八輯卷之八上套終

### 水滸畧傳

曲亭主人著

柳川重信画本集六卷  
來癸巳冬十二月發販

この書の水滸傳の百八人の好漢の畧傳を編述し且出像ありその画精妙その文  
簡約なり聊も送漏ありとて百二十回の長物語と皆その數卷を縮めこれ  
看官倦ざるのさあむ。記臆の爲の便利なり。地理官名を紛々。要畧各をこれ  
そがう入看て亦裨益あることあり。水滸傳の始より作者の隱微多々金を  
瑞李執見もこれを悟らむ。その故。那。里。の。評。注。精。細。似。え。れ。ど。作。者。の。本。意。不  
違。ぬ。の。早。る。曲。亭。の。翁。が。み。る。より。今。本。集。の。附。録。し。て。又。略。評。を。述。ん。と。り。  
一。と。び。目。を。繕。く。と。た。の。彼。の。情。由。これ。も。亦。か。る。故。り。け。り。と。看。官。る。て。亮。悟。し。て。い。や  
ま。も。水。滸。傳。の。妙。作。る。と。知。る。不。足。れ。り。世。の。小。説。と。愛。る。君。子。の。珍。重。を。一。奇。書。を。り。

### 水滸後画傳

曲亭主人譯文

出像 柳川重信画  
第一輯五卷 近刻

この書ハ明の厲宕山樵が水滸後傳四十回を國字に譯し通俗し七加ふる續像と

以後傳の趣向の立ざる宜らぬものあり。回八翁と云々筆削して全美の一書あると云々。  
 然れは後傳不見たる。前傳殘剩の好漢三十二人あり。その公孫勝呼延灼関勝朱仝  
 李俊李立載宗燕青孫立孫新阮小七柴進朱武黃信樊瑞樂和童威童  
 猛宋清裴宣穆春蔣敬蕭讓金天聖女道全蔡慶杜興楊林鄒淵凌振  
 皇甫端顧大嫂是等の内中前傳は第百二十回の死と云々の七人あり。その呼延灼  
 関勝阮小七柴進載宗李立杜興就中載宗の靈徽宗帝は夢  
 見え。御導せしむる事あり。又後傳は載する。皆彼作者の誤と云々。錯謬を補  
 更て前傳は死するものと。又後傳は生をとる。更亦批語をてし。彼拙劣を補  
 是譯し。さる世にあり。所の通俗本と同じか。ね。唐山熊疎。命。姫御達。筋と  
 ころて。介の文鄙俚。多。伏。稟。を。賜。顧。の。君子。先。の。書。名。と。認。て。用。板。の。日。と。俟。か。り。

江戸 大坂 大坂  
 丁子屋 河内屋 河内屋  
 平兵衛 長兵衛 茂兵衛

印行書肆

